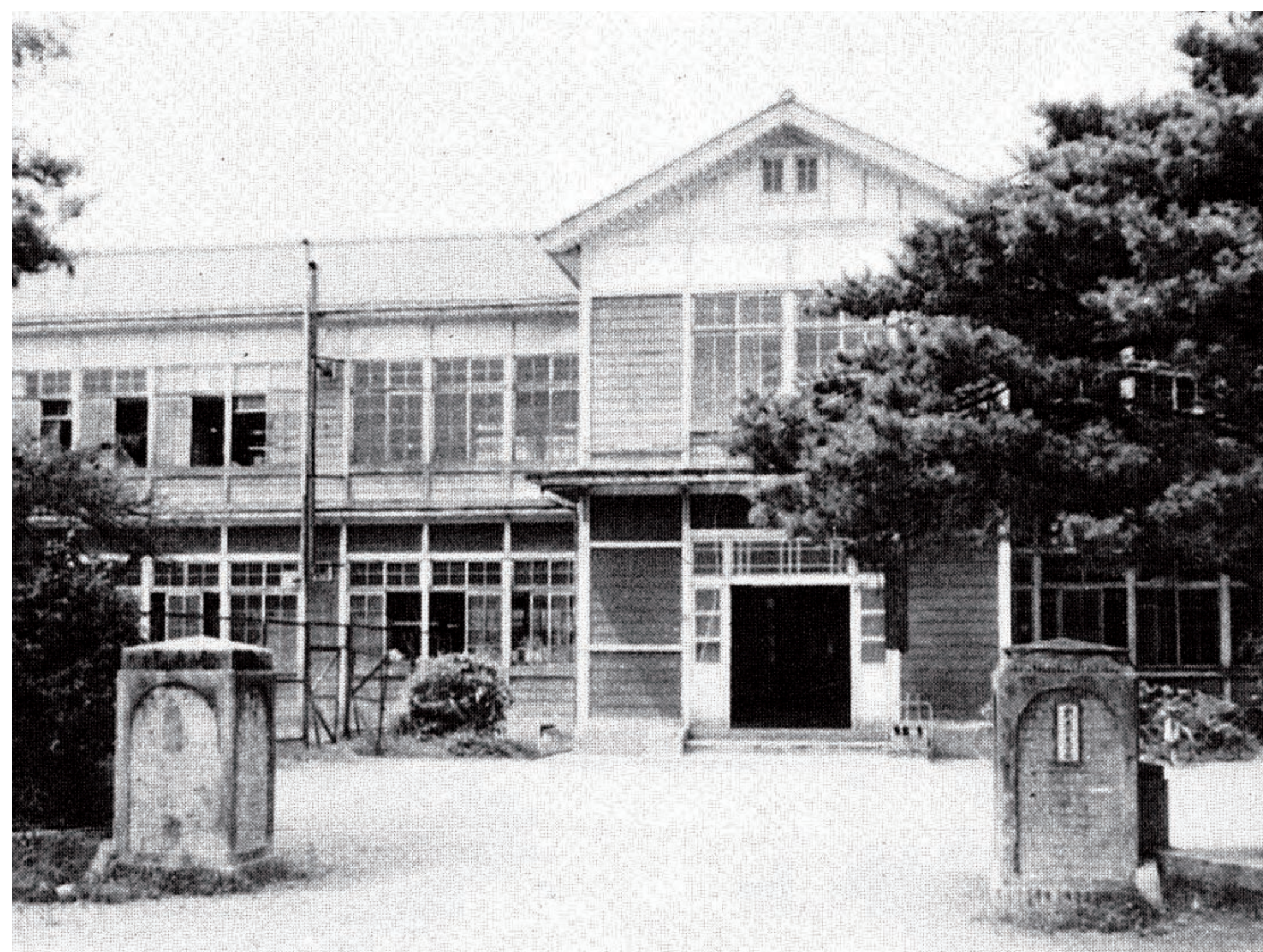


農学部 の歩み

山形県立農林専門学校の誕生

第二次世界大戦の終結間もない1945年(昭和20)12月8日の山形県議会にて、食糧難を解決するために高等農林学校設立の意見書が可決しました。これを受けて村山道雄^{むらやま みちお}山形県知事が文部省に国立農専の設立を提起しましたが、敗戦直後で国立で設立することが難しかったため、県立農専の設立の意向を固めます。候補地が受け入れに難色を示す中、加藤精三^{かとう せいぞう}鶴岡市長が誘致に動き、1947年(昭和22)1月に農林専門学校の設立が認可されました。

山形県立農林専門学校の校長には熊本県人吉の出身、東京帝国大学経済学部を卒業後、長らく千葉高等園芸学校教授として農業経済を担当していた石川武彦^{いしかわ たけひこ}が就任しました。石川は教育の基本方針を「学生も創設の業への参画者である」という言葉に込めました。石川は第1回入学式の式辞にて「創設のこの学校は、諸君の勉学を待つ設備整わず、農場、林野また整備されておらず、図書も多くない。これらは全て諸君の打ち振る鋤、打ち下ろす斧を待っている。諸君と職員の総努力により整備されていくものである



■ 山形県立農林専門学校校舎(『山形大学農学部創立三十周年記念誌』)

ことを忘れてはならぬ。これがためには和親を第一とし創設の業に従う熱意に燃えて邁進すべきである」と語っています。開校までに整備が間に合わなかった農場は、1947年から翌年にかけて教員と学生が自ら鋤を持ち開墾を行いました。1949年(昭和24)の山形大学創設により、山形県農林専門学校は農学部となります。

地域とのエピソード

加藤鶴岡市長は農林専門学校を誘致するに際して「庄内地域においてはぜひ鶴岡市に設置することを熱望するのである。鶴岡は稲作反別4万町歩、100万石の穀倉の中心地であり、庄内地域の文化・経済の中心である。平野・砂丘・牧畜・養蚕・山林の各地帯に学校の実習・研究施設を提供できる。食糧増産の喫緊の時に農業日本を建設すべき人材養成の学校を設立することは国家的見地においても適切であ

る。本件は庄内地域の熱烈な希望である」と述べています。

山形県立農林専門学校の校地6500坪、農場敷地10町歩は鶴岡市の寄付がなされ、演習林は山形県有模範林が移管されました。校舎本館のべ2000坪も鶴岡市の寄付によるものです。創設費総額2800万円あまりは県費から支出されました。



■ 教員と学生が開墾した農場(『山形大学農学部創立三十周年記念誌』)

山形アーカイブ実行委員会